

美浜町議会 小中学校再編調査研究特別委員会 視察報告

1. 視察期日

令和7年1月 28 日(火)

2. 視察先及び視察事項

(1)三重県桑名市

小中一貫校 多度学園について

(2)岐阜県大垣市

義務教育学校 上石津学園について

3. 視察参加者

委員長 丸田博雅

副委員長 森川元晴

委員 茶谷佳宏、野田謙弥、廣澤毅、荒井勝彦

4. 随行・同行者

教育部長 谷川雅啓

議会事務局長 宮崎典人

美浜町議会 小中学校再編調査研究特別委員会 行政視察 報告書
(三重県桑名市:桑名市立多度学園開校に向けた取り組み及び学校再編計画等
について)
(岐阜県大垣市:大垣市立上石津学園について)

氏 名 丸田 博雅

(1)三重県桑名市 小中一貫校「多度学園」(4 小学校・1 中学校 800 名)

開校予定:令和 8 年 4 月

①学校づくりの考え方

「多度の自然や文化を大切にし、9 年間のつながりと地域との交流を大切にした学校づくり」

・基本コンセプト「つながり」で育む子どもたちの「学び」と「育ち」

5 年(前期)2 年(中期)2 年(後期)

②基本計画・実施設計完了に至るまで、平成 29 年から 6 年ほどにわたり地域や教職員等意見交換を行った。

③開校準備委員会、教育指導部会、地域連携部会

多度小中一貫校教育推進協議会にて検討体制

地域、行政、教育委員会、議会などの議論連携がされている。

(2)岐阜県大垣市 義務教育学校「上石津学園」(4 小学校・1 中学校 274 名)

開校:令和 6 年 4 月 8 日

①教育目標 「きづく」「うごく」「みがき合う」

②上石津中学校を改造し、廊下の広さを利用した居場所、特別教室など低学年・高学年を考慮した施設

③複数の教師が複数の学級や学年を担当する「チーム担任制」

児童・生徒ひとりひとりにきめ細かい支援を行うことが目的とのこと。

④開校後、1 年経っていないが、教師や児童生徒が溶け込んでいる。通学もバス等にてスムーズとのこと。

⑤廃校後の施設利用として、旧・時小学校の体育館を利用し、オリンピック自転車競技(BMX)練習場施設を一般企業が開設している。

美浜町議会 小中学校再編調査研究特別委員会 行政視察 報告書
(三重県桑名市:桑名市立多度学園開校に向けた取り組み及び学校再編計画等
について)
(岐阜県大垣市:大垣市立上石津学園について)

氏 名 森川 元晴

(三重県桑名市:桑名市立多度学園開校に向けた取り組み及び学校再編計画等について)

本町と同じ時期(平成29年度)に事業計画(答申)から始まり、令和3年2月には多度地区小中一貫校整備事業基本構想、基本計画を策定まで進められました。新型コロナウイルス感染症との闘いから始まり、ロシアのウクライナ侵略を背景とした燃料、資源価格の高騰と大変な社会情勢の中でも事業、建築工事着手まで進められた事は、行政側の大変な努力と住民の理解があった事が想像されます。

建設地を見ての第一印象は、見晴らしの良い高台で解放感がありますが、本町の計画されていた日本福祉大の敷地内と同様に造成費用がかかる敷地と感じました。ただ、もともとある小学校の敷地周辺にすることにより、住民の理解も得やすかったのかなと感じます。

人件費、資材、物価の高騰等に伴い補正予算を組み、莫大な事業費(91億6886万円)となりましたが、事業を止めない勢い、迷う事無く令和8年度には開校するのだと感じました。(財政状況を踏まえた事業費借入等返済計画についても改めてお聞きしたいです。)

(岐阜県大垣市:大垣市立上石津学園について)

小中学校の児童生徒が減少する中、最も新しい義務教育形態である9年生の「義務教育学校」を取り入れ、学校経営方針がまとまりました。校舎の新設が理想であるが経済状況から厳しく、また、バス通学の路線変更もなく、体育館やグラウンドが2つある利点を踏まえ既存の施設、上石津中学校(築50年)を改修工事(6億2800万円)し、現在の「上石津学園」が誕生しました。児童生徒数274名であります。(令和6年4月開校)

本町の現状は、建設地、基本計画が報告されない状況であり、議論すら出来ない中、教育目標や学校経営等は大変参考になると感じました。ただ、274名の上石津の児童生徒と現在(令和6年)1341名の本町と一概に同じ考えが出来ないのも事実であり、ハードの面、ソフトの面も規模に適した施設整備等事業計画が必要であり、多額の費用が必要であります。原点に戻り、美浜の子供たちの教育、安心して送り出す親御さんの気持ちを十二分に考慮、検討していただき、3月までに建設予定地を含めた「基本計画」を慎重にまとめて頂きますようお願いばかりであります。

本町の財政状況を考えると、大変参考になる施設と感じました。

美浜町議会 小中学校再編調査研究特別委員会 行政視察 報告書
(三重県桑名市:桑名市立多度学園開校に向けた取り組み及び学校再編計画等
について)
(岐阜県大垣市:大垣市立上石津学園について)

氏 名 茶谷 佳宏

多度学園

・事業方式については、コスト削減と工期短縮を図るため、設計施工一括発注方式で進められているが、発注者である自治体側に教育面、建築面に精通した職員がいなければ、業者言いなりで工事が進められることが懸念される。コスト削減の比較検討はされていなかった。
・事業費については、急激な物価変動により当初契約額 78 億 8 千万円が変更契約で 12 億 9 千万円増え、91 億 7 千万円になった。

上石津学園

・義務教育学校として、既存の中学校を改修して令和6年4月に開校した。築 50 年の校舎を約6億円かけて、中学校を小学校1年生から中学校3年生までが学べるように改修していた。
・通学については、スクールバスが中心であるが、6台7コースで登校1便、下校2便と制約されており、1年生は視察した日も1時間ほど図書室で本の読み聞かせでスクールバスの出発時間まで調整していた。
・学校の跡地利用については、地元企業に無償貸与して利活用しようとしていた。教室を改修してウナギ養殖とイチゴの水耕栽培の循環型農業の研究と体育館を転貸してBMXの練習場として使用していた。

視察しての感想

2校とも保護者、地域の要望により統廃合の話が進められてきたことが、本町とは決定的に違うところであった。学校建設場所についても既存の学校及び隣接地を選定したことで合意が得られたのではないかと感じた。

低学年の児童では、通学についてスクールバスの負担が大きいことや、人数が増えたことによりコミュニケーションが難しいなどの課題も出てきているので、これからの計画にも反映させる必要があると感じた。

工事を発注しても資材や人件費の高騰で当初計画どおりでは、完了が難しいことも分かったので、財政計画でも余裕をもって実施しなくては自治体財政の破綻にもつながると思った。

本町での計画については、子どもの教育環境を一番に考え、保護者・地域の合意形成と財政計画を慎重に調整していく必要があると改めて思った。

美浜町議会 小中学校再編調査研究特別委員会 行政視察 報告書
(岐阜県大垣市:大垣市立上石津学園について)
(三重県桑名市:桑名市立多度学園開校に向けた取り組み及び学校再編計画等
について)

氏 名 野田 謙弥

①上石津学園について

◎今回、私が提出した事前質問についての回答

・人口減少が続く地域にとって、小中一貫校(義務教育学校)の存在意義、設立意義は、どんなことが挙げられますか。

☆これまで各地域がそれぞれに行っていた地域教育や地域人材を活用した教育活動を効果的に運用できるようになるとともに、子どもの育成を通じた地域の教育体制を構築することが期待できる。また、ふるさと学習をはじめとした学習活動をカリキュラムに盛り込むなど、地域が一体となった教育活動が期待できる。結果、地域で学校を支えるという機運が醸成され、地域から「地域協働本部」設置の申し出をいただいた。

・児童生徒一人一人に確かな学力を育成するために、貴校の小中一貫校(義務教育学校)ならではの特色は何ですか。

☆全学年で教科担任制を取り入れている(1, 2年生は一部)ことにより、教師が学びの系統性を理解して指導していること。理解が不十分になるもとになっている点に対応することで、つまづきを未然に防ぐ働きかけをすることができる。

・地域を愛し地域に貢献する児童生徒の育成を図るカリキュラムはありますか。

☆総合的な学習の時間のテーマとして扱っている。3, 4年生は「地域の特色(産業)」、8年生は「まちづくり」地域を素材として5年生「食」、6年生「防災」、7年生「環境」、9年生「キャリア」について考える基盤として上石津を扱っている。9年生の総合的な学習の時間(探求)の出口を、「将来、自分はどのように社会貢献していくのか」としている。

・小中一貫校にありがちな、小中学校の文化の違いに戸惑う教師や児童生徒には、どんな手当、研修システムが用意されていますか。

☆小中学校の文化の違いでの不具合が発生してくることを想定して、開校前に所属職員での学園の教育コンセプトについて研修を実施したり、開校準備作業を協力して行ったりした。学校運営組織の構成において、小中双方出身の教員を均等に配置している。

また、管理職(副校長、教頭2人)各期に配置するとともに、業務内容はそれぞれの分掌から全校を対象としていたり、各指導部会においては前任校における小中出身者が学び合うことができるような配置としたりしている。

・児童生徒の登下校はスクールバスの運用ですか。安心・安全が確保されていますか。

☆義務教育学校の開校前から、中学校で運用していたスクールバスを増便している。スクールバスは、上石津地域を運行している路線バス「関ヶ原時線」「上石津コミュニティバス」と一体的に運行している路線バス(市自主運行)として運用。

○7 系統(大型バス1台、中型バス4台、小型バス1台)

○運行回数(登校1便、下校2便) ○市委託料(約 4,100 万円 R6)

・学校跡地の利活用は順調に進んでいますか。

☆旧上石津中学校をリフォームしている関係で、4つの旧小学校の跡地を利活用する。

○旧多良小⇒社会人等を対象とした環境事業に関わる教育施設、避難所機能の維持及び休日及び夜間の施設開放

○旧時小⇒循環型農業を軸とした6次産業及び体験型集客施設

○旧牧田小、旧市之瀬小⇒第2期事業提案型一般公募(プロポーザル方式)を実施。

◎視察の感想

旧中学校の施設を小中一貫校仕様に徹底的にリノベーションしている。スクールバスの運用について、義務教育学校開校前から地域に根付いている。山間部に集落が点在し少子化が深刻な上石津地区が、飛び地でありながら合併で大垣市に編入されたことが小中一貫校開校への大きな要因である。ソフト面でも、カリキュラムマネジメントがしっかり出来ている。教職員や児童生徒の様子は明るく、古き良き田舎の学校というイメージである。

②多度学園について

◎今回、私が提出した事前質問についての回答

・教育委員会事務局に「新たな学校づくり課」を設置したいきさつと担当人員を教えてください。

☆事業進捗を図るため。管理職4名を含む7名で構成されている。

ちなみに、桑名市教育委員会事務局の機構図は教育総務課、新たな学校づくり課、学校支援課、人権教育課、幼稚園・小学校・中学校課に分かれている。

・当初の令和7年4月開校予定が、1年延期になったいきさつは何ですか。

☆土地の取得に時間を要した。(全体 6.0ha のうち市街化調整区域 4.1ha)

・開校当初における児童生徒の安心・安全な登下校をどのように図っていきますか。

☆学校における働き方改革に関する総合的な方策における中央教育審議会の答申(平成31年1月)において、登下校に関する見守り等は、基本的には学校以外が担うべき業務としていることから、児童生徒の安心・安全な登下校については、地域全体で見守る体制づくりが基本と考えている。現在、PTA や学校運営協議会の代表等と見守り体制について、話し合いを行ない、開校前準備を行なっている。

・全市的に小中一貫教育に取り組んでいかれるということで、行政主導の整備計画に、住民の合意をどのように図っていきますか。

☆令和2年度より小中一貫教育を推進している。今後の学校再編についても、地域の皆様のご意見を丁寧にお聞きしていくことが重要と考えている。

◎視察の感想

多度学園の立地条件を美浜町と比較して、留意すべき点を列挙してみる。まず、校区が平坦で、約5km四方の範囲である。元々、1つの中学校と4つの小学校を統合する計画なので、旧中学生(後期課程)は、そのまま自転車通学を継続させる予定である。4つの小学校のうち、3つの小学校が1学年1学級の小規模校で、唯一規模の大きい多度中小学校の隣接地に新校舎を建設中である。従って、学校から半径 1.5 kmを超える旧小学生(前期課程)のみをスクールバス(中型バス2台、マイクロバス3台で運用)で、登下校させればよい。桑名市としては、全市的に小中一貫教育に取り組む方針で、多度学園がモデルケースとなる。しかし、校舎一体型が

無理な場合、小学校課程と中学校課程の校舎を離す場合もある。

美浜町議会 小中学校再編調査研究特別委員会 行政視察 報告書
(三重県桑名市:桑名市立多度学園開校に向けた取り組み及び学校再編計画等
について)
(岐阜県大垣市:大垣市立上石津学園について)

氏 名 廣澤 毅

①桑名市立多度学園について

令和8年4月開校に向けて現在建設中の(造成・建築)現場を視察してきました。

桑名市の多度地区では、4小1中児童生徒合わせて約800人規模の小中一貫校を建設する為、2023年1月に約78億8千万円で契約したのですが、その後資材・人件費の高騰により大幅に増額することとなり、追加工事費として約12億9千万円増額し、令和7年1月27日の段階で、合計約91億7千万円の事業費が必要とのことでした。そして、建設事業費の中にはまだ働き方改革等による人件費が含まれていないようなので、この先さらに事業費が増えると思われます。

最終的には約100億をこえる事業費になるのではと考えられます。

桑名市は財政的に余裕があるようなので、そのまま事業が進められますが、美浜町の財政ではとても厳しい金額だと痛感しました。

桑名市多度地区では、基本構想・基本計画策定から建築工事着手までに4年かかっており、さらに建築物の完成までに1年半、計5年半かかる予定なので、このことを美浜町に置き換えると令和7年3月末時点で基本計画の策定が完了では、令和12年の開校は難しいと判断できます。

②大垣市立上石津学園について

令和6年4月に開校したばかりの学園を視察してきました。

上石津学園は4小1中児童生徒合わせ274人規模の小中一貫校で、旧上石津中学校を約6億2千万円かけ改修工事をし、学園として利用しているとのことでした。

この学園設立の発端は急激な少子化により心配された保護者や住民からの声が始まりだと聞きました。

そこは美浜町と大きく違うところだと感じました。

また、この学園では、階段の蹴上の高さを補う(小学生も使用しやすいようにする)ため、階段の両サイドに手摺りを設け安心・安全に使用できるようにしていることや、授業で使用するプールが元々中学生の仕様になっているので、プールの一部を底上げすることにより深さを調整し、小学生も利用できるようにするなどの工夫も見られ、お金をかけなくても色々なやり方があることがわかりとても勉強になりました。

本町において、小中一貫校が実現可能であれば勿論応援しますが、財政的に困難であるのならば、上石津学園のように既存の学校を改修し利用することも1つの案として考えるべきではと思いました。

美浜町議会 小中学校再編調査研究特別委員会 行政視察 報告書
(三重県桑名市:桑名市立多度学園開校に向けた取り組み及び学校再編計画等
について)
(岐阜県大垣市:大垣市立上石津学園について)

氏 名 荒井 勝彦

三重県桑名市立多度学園は、令和 8 年 4 月開校を目指して、木曽三川を見下ろす既存中学校隣接の丘陵地に建設中でした。当初の契約金額は 78 億 7,886 万円だったそうですが、昨今の諸物価高騰の影響を受けて、視察前日の臨時議会で、追加補正予算 12 億 9,000 万円が認められたそうです。

4 小学校と 1 中学校を統合して、新たに「多度学園」としてスタートするものですが、現在、既に 1 学年 1 クラスのところもあり、ひとつの小学校では複式学級のところもあるそうです。故に、学校の運営としては差し迫った状況だったようです。

敷地は多度中小学校に隣接した丘陵地で、遥か東に名古屋の高層ビル群を臨み、眼下には木曽三川が流れる抜群のロケーションでした。工事関係者の説明によれば、現在の小中学校は低地にあり、浸水危険地域に指定されている軟弱地盤に建っているそうですが、多度学園の建設地は高台故に浸水の恐れもなく、地山の強固な地盤だそうです。

このように順調に建設が進んでいる校舎ですが、プールに関しては新たに建設される市営プールを使用する予定だそうです。敷地内には当初より計画していないとのことでした。この市営プールへは、スクールバスによる送迎を行う予定だそうです。

私が一番驚いたことは、新設学校の校歌の選定方法でした。私の概念では、地元ゆかりの作詞家・作曲家、或いは著名な作家の方をお願いするのかと思っていましたが、「超校歌プロジェクト」と連携協定を結び、同プロジェクトが開発する生成 AI を活用し、地元の子どもたちや開校準備委員会とともに作成中だそうです。AI が校歌を作る時代、21 世紀の学校だと思つづくと思いました。

午後から伺った義務教育学校 岐阜県大垣市立上石津学園は、山間の過疎地であり、平成 18 年度に 538 名であった児童生徒数が、令和 6 年度には 274 名と、半分ほどに減少しています。これに危機感を抱いた住民側から、市長並びに教育長へ「義務教育学校建設要望書」が提出されたそうです。美浜町では小中一貫校建設における住民説明会の場で、少人数制の教育の良さを力説した住民の方もお見えになりましたが、そんなきれいごとを言っていられない状況を住民側も認識すべきだと思いました。「渴して井を穿つ」ことになってはなりません。

開校してからまだ 9 カ月ほどですが、概ね順調な滑り出しであるようです。既存の中学校の校舎をリフォームしての再利用の校舎ですが、至る所に工夫された箇所が見受けられました。校舎の階段は蹴上・踏面それぞれが、中学校では 18 cm 以下・26 cm 以

上、小学校では 16 cm以下・26 cm以上と建築基準法で定められています。こちらの校舎は元々中学校の校舎ですので、中学校としての基準は満たしているはずです。さらに小学生でも階段を上り下りしやすいように、既設の手すりの他に、今回の改修で新たな手すりを低い位置に追加して取り付けましたそうです。

プールに関しては、既存の 25mプールをコースの半分を「上げ底」として、低学年の児童用として使うなど、経費を削減する工夫がなされていました。深さの境界部分には取り外しが可能な柵を設置するのだそうです。

特別教室は床全面を 20 cm程嵩上げし、配線・配管部分を収めてありました。

このような工夫をした結果、工事費は 6 億 2,800 万円に抑えられたそうです。

今回の視察で私が強く要望し、閉校した小学校の体育館をBMXの練習場として再利用した施設を、最後に見せていただきました。地元企業が無償で大垣市から借り受けて、養老町出身のプロライダーの方が、後進の指導に役立てているそうです。この企業は空き校舎を利用してウナギの養殖とイチゴの栽培も計画しているそうで、将来このプロジェクトが成功して、上石津地区の特産品となることを願ってやみません。

今回の視察を終えて、私自身の固定概念を払拭し、あらゆる可能性を得る努力をし、最低の投資で最大の効果が得られるよう、美浜町の小中一貫校建設を推し進めていきたいと改めて感じました。